

八代市男女共同参画推進情報誌

Mi★Rai



男女共同参画宣言都市
八代市シンボルマーク

みらい

第12号



災害発生 その時、あなたならどうしますか？ ～クロスロードゲームを体験中～

CONTENTS

- ママ防災士と考える
こんなときどうする？
～災害への備えと
心がまえ～
- シリーズ
「キラット☆さん」
- おしらせ

地震や台風など、災害が発生すると、悲惨な現場が報道されます。こんな時、女性の出番はあるのでしょうか？

この疑問を解決するために、八代みらいネットでは、学習会を開催しました。講師に、東日本大震災を経験し、現在は、熊本県男女共同参画推進委員の「ママ防災士 柳原志保さん」を迎え、クロスロードゲームを体験しました。

この日の体験では、具体的な事例に、イエス・ノーと意思表示し、その判断理由を、語り合いました。参加者は、自分と異なる意見から、多様な価値観と、必要な対策に気づき、いざという時の心がまえができました。

※クロスロードとは、分かれ道のこと。クロスロードゲームは、阪神・淡路大震災を教訓に、京都市が製作した、カードを使って楽しく災害対応を学習する教材。

ママ防災士^{ママ}と考える こんなときどうする？ ～災害への備えと心がまえ～

ママ防災士
やなぎはらしほ
柳原 志保 さん



東日本大震災で被災し、和水町に移住
防災士資格取得
防災支援団体
「防災司団K-Plus」副代表
国際ソロプチミストアメリカ「夢を
生きる賞」受賞

●災害への備え できていますか？

災害時、「誰かがなんとかしてくれる」「消防団や行政が必ず助けてくれる」と考えていませんか？家族が別々の場所で災害に遭ったらどうしますか？
大切なのは、自分を守るために、一人一人が防災に取り組むことです。

●クロスロードゲームで あなたならどうする？

Q 仕事中に震度6の大地震が発生。しかし、あなたは、今日中に終わらせないといけない仕事があります。
帰宅しますか？それとも仕事を続けますか？

A 子どもが心配なので、帰宅するという人もいます。しかし、職業次第では、仕事に残らなければならぬ人もいます。あらかじめ、想定しておくことも大事ですね。家庭に合わせた対応が必要です。私は

母子家庭ですが、父子家庭ともに、支援が必要だと思いました。

また、震災など究極な状況では、普段はあやふやな事柄が表面化します。例えば、「震災があつたんだから、男性が仕事をして、女性が家庭を守るべき。女性は仕事を辞めなさい」という話も震災後には多く聞かれました。
誰でも特別休暇を取得できるのが理想ですね。

Q 大雨が続き、深夜12時、避難勧告が発令されました。
避難しますか？

A 暗く、足元が確認できない中で避難することを想像してみよう。まず、テレビやラジオ、携帯電話など、緊急情報配信システムを使い、自分で情報収集することが大事です。深夜まで待たなくても、避難に時間がかかる老人や子どもがいたら、早めに自主避難することも必要です。

日頃から、自宅周辺や避難所までの危険箇所、例えば、工事現場や側溝、ブロック塀などの場所を知っておくと安心ですね。
また、地域で援助が必要な人がいるかどうか、知っておくことも大切です。

Q 避難所に着きました。避難バッグを開けますか？

A 周囲の人に気を遣い、バッグを開けない人もいます。しかし、バッグを開けて避難グッズを分け合う人もいます。理想は、避難バッグをみんなが持っていることです。地域の防災訓練などで、避難バッグについて確認し合うと良いでしょう。

●備えましょう！

地域の自主防災組織に女性の意見を伝える
地域の自主防災組織で防災備蓄品を準備する時、男女とも参画することで不安を解消することができます。

東日本大震災でも、避難所では人数が多い人向けの物資は支給されましたが、サイズが必要な物や、特定の人だけが使う物（靴・下着・ベビー用品・生理用品・食物アレルギー対応食品など）は、なかなか支給されませんでした。更に、備蓄品が避難者数より不足している時、不公平が出ないように、初めから支給しないと判断されたこともありました。

また、避難所運営担当が男性だけの場合、生理用品が欲しくても、恥ずかしくて言えずに我慢してしまったり、一人に1個しか支給されないこともありました。女性は不衛生な状態が続くと、膀胱炎などにかかりやすくなります。そういう話をすると、「女性だけ優遇だ。こんな時にわがままだ」という意見が出たりします。しかし、男女では体のつくりが違うことを知っているのです。だからこそ、男女ともに、自主防災組織や避難所運営に参画することが重要なのです。

子どもには子ども専用の避難バッグを

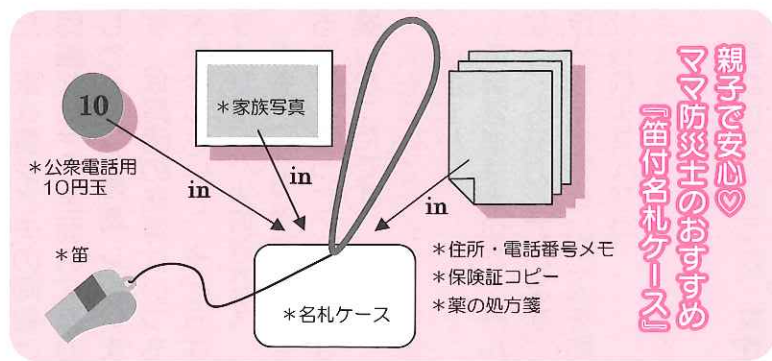
家庭では、個人個人に合わせた避難グッズを備えることが必要です。
災害発生時、親子が一緒にいるとは限りません。子どもが一人でも逃げられるように、子ども専用の避難バッグを準備しましょう。

また、災害後数日間、親子が再会できなくても、子どもが一人で生きていける力をつけさせましょう。避難グッズの点検を兼ねて、ピクニックやキャンプに行き、不自由を体験してみるのも良いですね。改善点が見つかります。

共助の大切さ

家族に、障がいを持った人や小さな子どもがいる場合、多くの人が集まる避難所に行きづらいと感じて自宅に残った人も多くいました。
私も避難所生活を経験して、知らない人ばかりの中での生活は心細いと実感しました。避難所生活になっ

た場合には、そこにいる人々が知恵と力を出し合って乗り越えるしかありません。普段から地域行事などに積極的に参加し、近所付き合いを深めることも大切です。



***家族写真**
家族と離れ離れになった時に、周囲の人が探しやすくなる。また、心の安定剤にもなる。

地域の消防訓練 ～坂本町板持地区編～

地区内100mごとに設置してある消火栓の一つに集まり、消火訓練を行うのが、安心を確認し合う毎年の行事になっています。今年は8月2日(日)に行いました。

坂本地区は、八代の消防本部はもちろん、地域の消防署も場所次第では遠く、過去には初期消火で済むボヤが、全焼になったケースもあります。そこで、住民の誰もが初期消火できるよう、毎年繰り返し訓練をしています。

この日も、ノズルの付け方、ホースの伸ばし方、放水の仕方などを、地域の消防団員の指導の元、体験しました。火災が起きず、消火栓を使わなくて済むのが理想ですが、いざという時、「使い方が分からない」「そもそも消火栓がどこにあるのか分からない」という事態にならないように、地域一丸となって頑張っています。



地域の消防団員からしっかり説明を受けました。

アレルギーがあっても大丈夫。災害時給食用非常食「救給カレー」がある！



これが優れものの救給カレーです。

東日本大震災当時、やっと届いた救援物資でも、食物アレルギーを持つために食べられない人がいたことから、全国学校栄養士協議会が安心して食べられる物を開発したのが「救給カレー」。アレルギー特定原材料等27品目不使用、国内産材料のみ使用、賞味

期限3年、常温でも美味しく、スプーン付きで食器不要という優れもの。

西部学校給食センター重本公茂場長は、「非常時、子どもたちは計り知れない程の不安な状態になります。そんな子どもの心を癒すのは、子ども同士で同じものを食べること。しかも、それが食べ慣れた大好きなカレーライスであれば、効果は倍増します。9月1日防災の日に、西部学校給食センターが担当する小中学校で、救給カレー 3,000食提供し、残食ゼロ。一人も残さないというのは、1年間で1回あるかどうかなんです。それだけ、美味しかったということでしょう」と話しました。

シリーズ キラッと☆さん

八代広域行政事務組合八代消防署日奈久分署に、消防士の村崎真理さんを訪ねました。ちなみに「消防士とは階級名で、正式には「消防吏員」と呼ぶそうです。



むらざき まり
村崎真理さん

***消防士になっただきっかけは？**

本当は消防士志望ではなかったのですが、24歳の時、勤務先の上司の勧めで受験し合格しました。八代で3人目、10年ぶりの女性の採用でした。

***女性は広報などの仕事かと思っていましたか？**

入署当時は事務の仕事でした。今では女性7人中6人が現場で働いています。

現場では女性も男性と同じ仕事です。消防だけでなく救急もあります。

***24時間勤務の仕事と育児の両立は大変でしたか？**

消防署に入って以来ずっと現場に出たいと思っていて、入署10年目、子どもが1歳半の時に決心しました。家は農家で夫の両親と同居なので、全面的に協力してくれて感謝しています。保育園の送迎はいつも夫がやっていて、子どもはすっかりパパ大好きです。でも、「僕も消防士になる」って言うてくれた時は嬉しかったです。

***気をつけていることはありますか？**

体調管理は大切で、みんなとても努力しています。自分が元気でないと人を助けられませんから。

***女性消防士だからできることはありますか？**

声かけでしょうか。女性や子どもの対応では安心感があると思います。特に救急では子どもが多いので。

***地域の人が期待することはありませんか？**

いざという時何ができるか、日頃から考えておくことが大事です。地域では、

男性、女性両方のリーダーを決めておくといいですね。

***後に続く人へアドバイスなどありましたか？**

女性の得意分野や才能を活かして、もっと活躍が広がる可能性のある職場だと思います。

女子中学生の職場体験が増えているので将来が楽しみです。

男女共同参画講演会を開催しました ～八代みらいネット～

9月13日(日)に、肥後銀行八代支店セミナールームで新市誕生10周年記念市民活動特別支援事業として講演会を開催しました。講師の村山由香里さん(株)アヴァンティ代表取締役会長CEO)が「女性が活躍する社会へ、いま、変化の時！」と題し、男女共同参画の必要性と、新しい価値観を持つことの大切さを話しました。

講演会の後は「まちづくりに女性の声を反映させるために、今自分にできること」をテーマに、交流会を開催しました。飲み物を片手にリラックスした雰囲気の中、活発な意見が飛び交っていました。



講師を交えての意見交換
(中央が講師の村山由香里さん)

編集後記

○備えあれば憂いなし！我が家もさつそく「避難バッグ」の用意をします。できることから一つずつ。(m-m.com)

○堅苦しい内容を、とろける様に柔らかな記事にしました。避難バッグ準備完了 (井山さおり)

○近年、災害が身近で現実的に感じられます。月並みですが、「備えあれば憂いなし」 (賀久小夜子)

○初めて編集に参加しました。幼い頃からの夢が一つ叶ったので、来年もそのままのパワーで見聞を広めて、皆さんへお伝えできればと思います。(山本真弓)

新市誕生10周年記念男女共同参画推進事業 いっそDEフェスタ2016

●とき 平成28年2月14日(日)

●ところ やつしろハーモニーホール
*入場無料 *託児あり(要予約)

●内容

13:00 開会

13:15 エフエムやつしろ公開録音

“ぼくらの放送大・集・合 谷口真由美さん

いっそDEしゃべろうスペシャル”

14:30 講演 「すすんで？女性の進出
～全日本おばちゃん党にきく～」

講師 谷口真由美さん
大阪国際大学准教授 大阪大学非常勤講師
全日本おばちゃん党代表代行
TBS「サンデーモーニング」
コメンテーター

16:00 閉会

●問い合わせ

いっそDEフェスタ2016実行委員会事務局
(人権政策課 0965-30-1701)

